



強い円は日本の国益

榊原英資著

東洋経済新報社 2008

経営学部准教授 倉持 俊弥

私の担当は経済入門なので、その立場から述べさせていただきます。新入生の皆さんが誕生された当時。Jリーグやワールドカップ予選、サッカーの話題が日本の多くの人たちの間で語られるようになっていきました。

でも日本の社会、経済のほうは、どうにも芳しくありませんでした。あとになって「失われた10年」とか、「失われた20年」だとか振り返られるような状態に陥り始めてしまいました。何がいけなかったのでしょうか。経済学を勉強していると、どちらかと言うと過去の事実を分析して原因探求をするというやり方が多いと思います。そこから何らかの教訓を学び出来るだけ同じ落とし穴にはまらないように心がけるといった感じだと思います。

「10年」にせよ「20年」にせよ、遡れば「不良債権問題」そして「バブル崩壊」です。さらに遡ると「バブル経済」そして「円高不況」さらに「プラザ合意」、「日米貿易摩擦」。プラザとは娯楽映画の舞台にもなった米国のホテル名です。皆さんがまだ生まれていない1985年のことで、ご存じなくてもしかたがないかもしれませんが、できればネット検索して下さい。問題は、円高不況とバブル経済の間に何があったのかです。つまりバブル経済の原因です。諸説あるかとは思いますが。後からなら何とでもいえると当事者の方々からは叱られ

そうです。日々クレーム対応で大変だったのですから。でも、円高対策のための景気刺激政策の行き過ぎ、つまり経済政策が適切でなかったことは無視できないでしょう。

最後になってしまいました。一冊、榊原英資著『強い円は日本の国益』のご一読をお勧めいたします。これだけですべて把握できるとは申しませんが、さらに関心をもたれたらネットなり、論文なり、あさっているうちに、いつの間にか理解がじわじわと深まることも期待できるのではないかと思います。